

お金へのコンプレックスレポート

こんにちは！フミヤです。

このレポートでは、僕が26歳で月収700万円を稼げるようになったこと。そして、それに至るまでにお金に対してのコンプレックスがあったことを書いていきたいと思います。

2020年現在、僕は元々看護師をしていたが起業の道を選び月収にして100万円は切らない収益を得ている。50ヶ月以上連続である。

僕は自分で事業を始めたということだ。

21歳より看護師を経て25歳で看護師を辞めてそんな世界へ行くことができた。

ですが、

その真逆でお金へのコンプレックスが異常であったことを
書き記していこうと思う。

最初に伝えていきたいと思うことが、、、

お金がないとあらゆる全てのことに対して壊滅状態になる
という可能性が高くなるということ。

僕自身が育った環境がいろんなことが崩壊していたのもあ
るがそれらをここに記していこうと思う。

僕の個人的な理念として

「お金、時間、場所、人間関係、仕事」この5つの自由を手
に入れるために起業をしたと言っても過言ではない。

ですが、基本的には「お金」の自由が失われているというこ
とは全ての自由が失われていることを意味している。

お金がない。

この1つが不自由なだけで全てを阻害する。

僕は母親が 1 人のいわゆる母子家庭であるが母親が 2 度の離婚を経験していて祖父母に助けられた。

それらも含めて僕自身の生々しい経験と一緒に書いていきます。(複雑な心境すぎて仲のいい友達にも稼ぐようになるまで言えなかったほどのコンプレックスでもあります。)

僕は 1989 年の秋に生まれた。

保育園の物心つく前に母は最初の父親とは離婚していたので多くの記憶はない。

母には離婚原因は勝手にバイクを買ったり年中パチンコをしていて給料を家に入れてくれなかったと聞いている。

小学校に上がる前までは、

母親は俗に言う女手一つで僕を育ててくれた。

朝、昼、夜とトリプルワークで祖父母や保育園に預けられながら僕を育ててくれたのだ。

土日の休みになると遊びに連れて行ってきて好きなおもちゃを買ってくれたのを覚えている。

そして、

母が 2 度目の結婚を僕が小学校に上がる前にするのを機に少し都会に住むことになるのだが、

表面上は普通の少年に見えていただろう。

だが、実際はいろいろ問題が生じていたのだ。

僕は周りには弱みを打ち明けることが死ぬほど嫌いな超プライドの高い少年だったので平然を装っていた。

その出来事とは・・・

時折、2 番目の父親が給料を家に入れてくれないという謎の事態に直面し母がヒステリーを起こすのを必死になだめるということだ。

祖父母に迷惑を掛けたくない僕からしたら必死だ。

これは中学に上がる頃には頻繁に起きていた出来事である。

最初もお金問題で今回もお金問題でどうなってんだよと思
ったのは言うまでもない。

中学の頃、母と父が戸籍上だけ離婚をし、
また母子家庭になった。

母からは夫婦別性が流行っているからという謎なことを言
われた。

もうもはや意味不明な家庭環境すぎて考えるのをやめた。

1 つだけ覚えているのが給食費の封筒を母子家庭の人だけ
配られていなかったの僕はずぐにしまったフリをして両
親が離婚していないように振る舞うことをしていたので覚
えている。

それほどにプライドが高く弱みを握られたくなかったのだ。
すっげー嫌だった記憶だ。

母の2度の離婚は全て経済的な問題によるところが大きい。

最初もそうだし、2回目”も”である。

子供で自立をしていない僕には何かできる問題ではなかった。

子供である自分にはなににもできないし世の中は金があったらどうにかなるみたいな価値観が出来上がったのもこの頃かもしれない。

そんな事態があったために母が祖父母を頼ってお金を援助してもらっていることにもあった。

そんな問題があったのだが、突然事件が起こる。

2番目の父親が僕が高校1年生の1学期の時に突然謎の失踪をする。

突然音信不通になり、行方がわからなくなったのだ。

過去のトリプルワークで寝ずに仕事をしていた母は体調不良がありまともに働けないのでそこでそのまま生活出来るほどの経済力を持ち合わせていなかった。

そのため、

半ば強制的に祖父母の家で面倒を見てもらうために母が生まれた土地に帰ることになる。

が、2番目の父が失踪した時の僕の感情は

「てことはこのまま就職して自衛隊にでもならなくてはいけないのかな」と本気で悩んだ。

僕にとって小学校1年生から高校1年の約10年間住んだ慣れ親しんだ地元を離れるという僕の中では衝撃的な出来事だったからだ。

むしろ、時折起こるお金問題で母に実家に帰ろうと言われるも断固拒否していた。

なぜなら僕はサッカーをしていたのだが県内の強豪校にいて部活にも打ち込んでいたが夢は絶たれ、さらには結果的に経済面でお世話になる祖父母を恐れていたのだ。

が、状況が状況なので諦めて祖父母にお世話になるしかなかった。

祖父は海外へ行くような船乗りをしていて経済的には裕福ではあったが貯金が趣味でケチな祖母の影響でお金を全く使わない。使えないと言った方が正しいか。

「もったいない」

「にいもんずいが（新しいものが好き）」

が口癖の祖母だった。

時々学生時代の長期休みに祖父母の家に行くのだが母親が経済的にお世話になっているのを知っているため僕は助け

でもらっている意識が強く何かを言えずにちょっとした恐怖を感じていた。

ちょっとでも逆らったら自身の生活が危ぶまれる。

お金を援助してもらえないと子供ながらに思っていた。

だからこそ言いたいことも言えない。

欲しいものも欲しいと言えない。

つまり、わがままが言えなくなったのだ。

僕は自分で事業を立ち上げて己の力で稼ぐようになるまで好きなことをするというのを「良くないこと」と捉えていた。

看護師として働きはじめてではない理由が実はあって、
高校から専門学校卒業までの掛かった費用（600万円）を祖
父母に返済する必要があったためである。

援助はしてもらったが返さなくてはいけなかった。

そのため、

なるべく安いものを選択しなければならない、そして新しいものをあまり買ってはいけないというある種、強迫観念のようなものを感じていた。

それは、

祖父母の家に行くと新しく買ってもらった洋服を着ていると「新しいもの買ってばかりで贅沢だな」「身長がどうせ伸びるのに新しい物はいらないだろ！もったいない」と会うたびに言われること（母にも）に起因している。

そんなこんなで素直にならないことが最良の選択であることを子供ながらに学習してしまった。

素直にわがままを通すと怒られ、ガミガミ言われる。

なので、常に素直にならずに我慢することを覚えたのだ。

そんな価値観になった。

僕は無意識レベルで素直じゃない価値観になったというこ

とだ。

僕はそのため素直じゃない3年ほどを過ごした。

そして、それは今だからこそ言えるが思春期の子供時代に多くのものを破壊したと思っている。

経済的困窮により弱い立場の母が祖父母を頼る姿を見てまさに資本主義を目の当たりにした。

何が言いたいかというと・・・

僕の場合は祖父母が裕福ではあるものの実際頼るべき親に経済力がなく祖父母に頼るしかなかったのだ。

が、お金を持っている人が強いという母と祖母の関係を見てみると資本主義のそのままの図を表したような図式だった。

そして、祖母が異常にケチだし厳しかったこと。

「お金が全て」であると母と祖父母の関係を見せられたので

ある。

これは母にもしつこく言われた。

僕は運良く、

事業をするという立場になることができて、

26歳にしてお金に関してはほぼ困らないと確信ができるまでに至ることができた。

そして、その道中で魅力的な人間にたくさん会うことができるようになった。(その逆もあるのだがここでは割愛する)

世間的にはお金を持っている人を何か悪いことをしているのではないかという風潮もあるが実際のところはそんな典型的な「悪」のような人というのは少ない。

そもそもの話になるが

起業家としてお金を得るためには、

人に価値を提供しなければならない。

仮想通貨で一発当てた人でもなければ宝くじに当たった人でもないのだ。

起業家になると、

これははっきり言って人間としての魅力はどんどん増していくと思っている。

価値を提供するというは、

すなわちそんな思考になるからだ。

僕自身は途中からそのような人から学んでいった。

そうしていたら、

僕自身に心の余裕も生まれた。

お金の余裕ができたことでさらには

時間もできて

そしたらさらに人間力も高く、

レベルの高い時間を大切にするプロ意識の
高い人達に会うことができた。

そういった出会いによって、
僕のこじれたケチな価値観は、
まだまだではあるものの少しずつ人に価値を
与える価値観に変わっていった。

まだまだ追いつけていないが、
常日頃から人に価値を与えるというのは基本だなという思
考には至っている。

脱線したので戻ります。

僕の幼少期から社会人になるまでに関しては
お金のコンプレックスを抜きには語ることはできない。

側から見ると貧乏ではなかったかもしれないが
祖父母には気を使い、祖母のケチな価値観により

- ・素直になれなかったこと
- ・素直になれないゆえのプライドの高さの露呈
- ・ケチであることを自分で無理矢理に肯定し
- ・常に人と比べて馬鹿にするようになってたり

様々なことを失ってきてしまっていたのだと感じる。

最初の素直になれないことについて深堀していこうと思う。

まず、祖母がケチだった。

それも圧倒的なケチである。

安いものしか買わない

安ければ安いものを買いつつ溜めするのだ。

安いものを買うという思考がダメと

言っているのではない。

問題なのは時間をかなり消費しても安いものを買うに行くという価値観である。

特売のトイレットペーパーを買うために徒歩で行けるスーパーには行かずに車で30分掛けてでも安いスーパーに行く。

お一人様一点限りであれば僕も連れて行かれる。

そんな価値観を常に目の当たりにしたために僕自身もどんどんケチになっていった。

価値観というのは本当に怖いもので、
今でこそわかることだがケチであることは
お金を稼ぐ人とは程遠い価値観である。

もはや真逆の思考。

ケチであることは貧乏から抜け出せない思考の一つである
と言っても過言ではない。

特売のトイレットペーパーを買いに行ったところで、
450 円が 398 円になるだけだ。

その差 52 円になんの価値があるのか。

ケチというの価値観には限度があると僕は思う。

ケチってのはすなわち支出を減らすことだ。

つまりは、支出を減らす行為というのには限度がある。

支出を減らすといっても儉約家というではなく、
ケチなのだ。

儉約家というのには僕も大賛成である。

けれども、ケチはちょっと反対だ。

お金持ちというのは収入を増やしていくことを思考する。

正直言うとこれを僕は幼少期に知りたかった。

いうても幼少期からそれを知っていたらスーパー金持ちに

なってしまうていただろう。笑

余談だが、ケチとコスパは話が違ってくる。

コスパがいいよねというコストパフォーマンスを追い求める考え方はより効率的に人生の豊かさや満足度を上げる行為だと僕は思っている。

お金を大切にし過ぎるあまりに祖母のようにケチになってしまう。これは戦後を生き抜いている人だから仕方ない部分もある。

「お金、時間、場所、人間関係、仕事」この5つの自由を得るためにあらゆる角度、視点で満足度を上げていくこと。

これが最善のコスパである。

具体例を話していくと、

僕の家にはドラム式の乾燥機付き洗濯機がある。

そして僕は重度の面倒くさがり屋である。

僕は乾燥機付き洗濯機を結構いい値段をするものを購入しているが、それは面倒くさがり屋であるからだ。

面倒くさがり屋であることと、

そういった家事的な作業が入ると集中力が遮断されてしまいう弱点が僕にはある。

ドラム式の乾燥機付き洗濯機であれば「干す」作業がないので洗濯から乾燥まで「全自動」でやってくれるし、

そして、天候を全く気にしなくて済む。

結果的に水道代が縦型にするよりも節約ができる。

という点で時間の節約が可能になるということだ。

逆に祖母の場合は、

二層式の洗濯機を 30 年以上同じものを使っている。笑

洗い→すすぎまで終わったら脱水させるために脱水出来る

場所に移しその後乾燥させるために干すのだ。

そのため、

僕の場合は祖父母の家では一旦洗ってからすすぎが終わるまで時間を気にしていたのだ。

時間効率悪いですよ。

これは余談だが僕の祖母は 2020 年の現在でも「黒電話」を使用したりもしている。壊れないからという理由で。

誰から電話が来たかもわからないし、留守電機能もないのではっきり言って不便である。

そして、学生時代は恥ずかしかった。

結局のところお金を払うことで面倒なこともすぐに解決することができる。

お金を払うことで解決出来ることは時間短縮になり圧倒的

にコスパがいいと僕は思う。

その方が劇的な変化が起こることを僕は知っているからだ。

とは言っても、

僕のケチの根源は祖母からきているのでその価値観を破壊するのは簡単なことではなかった。

今でこそこんな単純にコスパの話をしているが昔だったらこんなに素直なことははっきり言ってできなかった。

なぜならお金が掛かるからだ。

ケチである人間にとって、お金というものは優先度が鬼高い。

だからことあらゆるチャンスを棒にふる。

例えば、素直に

「ドラム式乾燥付き洗濯機が欲しい」なんてことが言えないということだ。

別に今まで通りの縦型の洗濯機でもむしろ二層式でも問題ない。と、強がっていただろう。

たかが洗濯機と思うかもしれない。

何が言いたいかというとなれほどの価値観の影響というのは強いということを理解して欲しいのだ。

ケチな価値観に一生コミットし続けたら、ありとあらゆるものに対してケチになってしまいます。

欲しいものは欲しいでいいのだ。

お金が足りないなら稼ぎ出せばいいだけの話。

たったそれだけだ。

お金をものすごく大切にすあまり、お金が眠ってしまっていては全く意味がない。

お金というものは単なる手段にすぎないのだ。

実際にドラム式の乾燥機付き洗濯機を導入して思うのが全
家庭が導入してもいいと思う。全自動であれば縦型でもよい。
ケチというのは機会損失が半端じゃない。

それは超金持ちの価値観と超どケチな価値観の両方を見て
きたからこそわかることだ。

ちなみに超金持ちの価値観というのは世間一般の価値観と
は全く異なると言っていい。

「お金、時間、場所、人間関係、仕事」この5つの自由を手
に入れるためにお金をどんどん使っていく。

でもそれは贅沢をするという話ではないのだ。

話がズレたので戻すと、

ドラム式の洗濯機を導入することなんて祖父母の家ではス
ーパー贅沢なことである。

ましてや、黒電話から普通の電話機に変えることすらもだ。

もちろん、長く使うことはいいことではある。

こんなケチな価値観なのでそれが当たり前になっていた。

素直ではないことは当たり前になっていたので、

親、そして祖父母に頼ることは僕にとって完全なるダメなことになった。

それは僕の性格を歪めた原因でもある気がしている。

他人で親に頼りきっていたりしている甘ちゃんを見ると負の感情が沸き起こってしまうからだ。

完全なる嫉妬である。

素直にならないということは本当にひどいものだ。

欲しいものが欲しいと言えない。

なりたいものになりたいと言えない。

価値観というのは非常に恐ろしい。

なぜなら人を内面から変えてしまうからである。

成功できない価値観に染まっていたら、

当たり前だが成功できない状態であるということだ。

実際に僕も経済的に困っていることを肯定してたこともある。

例えば、

本当は行きたい高校があった。

私立高校でサッカーの強いところだ。

が、実際問題入学したところは公立高校、自転車で通える距離のサッカーの強豪校だった。

僕はこれに対して

「公立高校でチャリ通勤で行けるところならば親にも迷惑かからんし、お小遣いも増えるからおれはそこに行く！」

と、友達に豪語していたのだ。

もちろん小遣いなんて貰ってないのに。

素直な感情に嘘をつきこんなことを言っていた。

本当はあそこの高校に行きたい。

なんてことを口にしたら母親や祖父母になんて言われるのか。

祖母にはそんなお金の掛かるところにと言われるのは目に見えている。2番目の父が経済的に不安定なので僕は地元で留まることだけを一心に考え抜いた。

つまりは、

最初から求めるのもおかしい。最低限度でいい。

こんな思考になっていた。

僕は看護師を4年間やっていたのだが、

看護師を選択したのも理由がある。

まず、

祖父母からは高校を転校する際に

「大学も行かせてやるからこっちに帰ってこい」

と言われたのもあって妥協して祖父母の家にお世話になっ

たのもある。(僕にはどうすることもできなかったけど)

で実際に進路を決める高校3年の夏頃、

急に、

「手に職をつけろ！大学に行っても意味はない」

と大学の道は閉ざされた。

本来であればいい大学に行くことでいい企業に就職できる

ので世間の評価も変わる。

それはのちに収入にも影響するのは知っていた。

日本という国は資本主義社会なので、

地位がある、金がある、頭のいいやつが勝てる社会だ。

単純にそれらを突破するためには学歴を得ることが最大の近道なのが僕にはその道すら閉ざされたのだった。

一生懸命調べた結果、

そこそこの高給取りで資格があればどこでも働ける資格である看護師はアリだ。最近男性看護師も増えているらしい。

看護師になって自由に稼げるようになってから本当にやりたいことを決めるしかないと高校3年の夏に悟った。

学校の条件は

学費が安い、そして寮がある。

(祖父母の元から離れたかったのだ)

あとはもともといた地元で1番近いところという理由で看護学校を決めた。

「看護師なればそこそこの給料だし大学生は就活苦しめ！」

と素直でないひねくれはそこでも発揮していた。

ぶっちゃけた話、

なりたくてなった職業ではないものの今考えれば、

祖父にはめっちゃめっちゃ感謝している。

今でこそ思うことは当時の僕であれば大学に行ったところ

で意味はなかったと自負はしている。

が、素直に本当は大学に行きたいというのは言えなかったの

も事実である。

看護学校時代の周りは看護師への憧れで入学する人もいて、

僕は

「おれなんてなりたくて行ってるわけではない」と

思っていたし、

「入院した時の看護師さんに憧れて」という多数のエピソード

ドにうんざりしていた。

なんともひねくれたやつだっただろう。

何度も辞めたいと思っていたのだが、

なんとかやっていけたのも看護師にならないと祖父母の家に強制送還されて田舎で就職しなければいけないというまさに背水の陣だったからに他ならない。

そんなこんなで看護師にはなる。

本当は給料の高い病院に就職したかった思いもあったのだが付属の病院に行くことを条件に付属病院から奨学金を借りていたのでエスカレーター式で実習先であった付属病院に就職することになる。

僕は奨学金の返済と祖父母から援助を受けた高校の学費と専門学校の学費＋生活費の返済が始まった。

僕が実際に働くまでの看護師のイメージは、

- ・給料がまあまあ高い
- ・安定しているとか

周りの友達からは「ハーレムじゃん」って言われたことも。

安定しているのは間違いないし、看護師の職業としてのやりがいとはとてつもなくあるのだが給料はみんなが思っているほどは高くないのは伝えたい。（病院による）

僕のところは20時間拘束の夜勤を週に1回（月4回）やって手取りが20万いくかなという感じだった。

僕の目先は祖父母へのお金の返済と奨学金だった。

返したら精神的に自由になれる。

その一心だった。

看護師の1年目で僕はパチンコに出会った。

パチンコに出会った経緯はよくある初めてパチンコに行き、
ビギナーズラックで何万も儲けたみたいな始まりではない。

祖父母への返済と奨学金の返済でたまにある休日にお金の
掛からない遊びを見つけたことがきっかけだ。

休日にはゲーセンのメダルゲームに行きメダルがなくなら
なければ無料でずっと遊べる状態が続く。

そこで当たりが連発する謎の台を発見したこと休日の遊び
に困らなくなったのだ。

そして、

「これが金になったらいいな」

「遊びながら金儲けできたらどんだけ最高のことなんだ」

と思ったことがきっかけなのである。

最初は意味もわからなかったのだがおそるおそる1円パチンコから始めてみた。

感覚的には勝っても5000円負けても5000円くらいの遊びだった。ケチなのでむしろそれに留めていたと言った方が正しいだろう。

それでも1円パチンコは看護師1年目としての仕事の大変さ、辛さ、また祖父母へのお金のことを全て忘れさせてくれた。

当時の僕にとっての唯一の娯楽だった。

そのうちエスカレートしていき冬のボーナスをきっかけに
4円パチンコに手を出すことになる。

1円パチンコの4倍なので僕の感覚からすると、

「勝って2万円、負けても2万円くらいの世界だろ。」
とっていた。

もちろん、当時の僕からしたらかなりの大金だ。

が初めての4円パチンコは当時の僕からしたら衝撃の5万円
負けだった。

当たれば取り返せると1万円、さらに1万円とサンド（玉や
メダルの貸出機）に投入していったのだ。

それで懲りたみたいなことにはならずその後は返済と生活費と他にパチンコ用の軍資金を用意してパチンコに費やすようになっていた。

僕の価値観はケチのままなので服を買ったり飲みに行ったり遊びに行くことをせずパチンコで稼ぐようになるために時間とお金を費やしていたのだ。

休日には朝から行列に並ぶことをし、
看護師の仕事が終われば打ちに行くし、
夜勤明けで寝ずに打ちに行ったりもした。

ケチな価値観を持っていた僕のリミッターが親元を離れて看護師として給料を頂き好きに使えるようになったからこそ爆発したと見えるかもしれない。

が、本来の目的は早く祖父母へお金を返済するためである。

稼げるかもしれない方法をこれしか知らなかったのだ。

もちろん、

アドレナリンがドバドバ止まらなかったし、

勤務中にパチンコの当たりの音楽が流れてくるほどにハマってしまったのも事実である。

パチンコで人生破綻する人もよくいると聞くが、

その気持ちはめちゃめちゃわかる。

自分ではどうすることもできないくらいにパチンコ屋へ吸い込まれていく。

借金を返さなくてはいけないのにパチンコに行く人の心理はこうである。

「次は勝てる、次は勝てる」

と本気で思ってしまうのだ。

やめればいいのにどうしてもやめられない。

だからこそ逆に僕はパチンコで勝つ方法を模索することにした。

(パチンコ中毒であるはずなのに祖父母へのお金を早く返済するためであると自分勝手な解釈に見えるかもしれない。)

当時の僕からしたら本気でパチンコで稼ぐ気満々である。

ささいなきっかけだったかもしれない。

好きなことで稼げたら本気で嬉しいことはない、

当時はそんな風に本気で思っていたし、
そのための努力はしたつもりだ。

ネットで調べて実践しての繰り返しでかなりの年月を費や
した。半年以上は経過しただろう。

今だからこそ言えることがいくつかある。

勝てるようになったきっかけとしては、
ネットに出回っているクソみたいな情報の中にも本物が存
在したこと。

クソみたいな情報を補足しておく
パチンコ必勝法みたいなものの中には詐欺的なものだから手
が出そうになるわけのわからない攻略法も出回っている。

- ・ 直当たり打法

セット打法とも言われていて大当たりをこの手順でやれば出せるとかいう意味不明な打法である。

- ・ 連チャン打法

そもそも連チャンは確率である。

- ・ 波理論

データを見てそろそろ爆発するだろうというところで打つという無謀な理論

ザッとこんなところだろう。

これらはネットビジネスにも時々出てくる

- ・ ワンクリックで200万円
- ・ システムで何もしないで100万円
- ・ 月利30%の投資

同じレベルでありえないのだ。

つまりは、

情報の見極めは大事であるということにも繋がる。

僕は、

本物の情報に基づいて実践した。

また、周りに勝っている友達がいて手取り足取り教えてもらえたこと。

この3点に他ならない。

1. 本物の情報を見極めた
2. 本物の情報に基づいて実践した
3. 実際に勝ってる人に教えてもらった

それに加えて、運もよかったと思っている。

パチンコには勝つための”正攻法”なるものが存在し、勝つための原理原則がある。

パチンコで勝つための原理原則は、
投資額が回収金額を上回ればよいので理論上、
期待値の高い台をひたすら打つだけである。

期待値とは理論上の平均値を意味するので、

簡単に伝えると、

この台を終日稼働して確率通りに当たれば（例：2万円勝てる台を見つけてそれをただひたすらに打つ。

終日稼働した結果、

確率よりも多く当たれば大勝ちできるし、多少引きが悪くても当たりが少なくても勝てるということです。

もちろん、

確率なのでその日負けることは当たり前にあります。

つまり、

パチンコで負け続けて年間通しても勝てないとしたら

《打てば打つほど負債が増える、期待値マイナスの台を打っている》

これだけである。(今回は具体的な内容には触れないでおく)

注意点としては短期的に勝てるようになるものでもなく理論に基づいて長期的な目線を持つ必要がある。

なぜならパチンコは確率が存在するので、正しい方法で実践していたとしても確率の下ブレを食らってしまえば自ずと収支はマイナスに転じる時があるからです。

長期的な目線。

いわゆる1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月、1年スパンで物事を捉えることが出来なければ成功体験を得れず体感することなく諦めてしまうということだ。

これはビジネスでも同じことが言える。

そのために、先にそれを知ることが出来て僕は幸運だったと思う。

そんな流れで結果的に僕は2年間でパチンコのみで300万円ほど稼げるようになった。

副業としては上出来である。

祖父母への返済を早める一歩とすることが出来たからだ。

返済の金額を上げることも出来るようになったし、

貯金をすることもできるようになった。

僕にとってのパチンコは最初こそ娯楽になっていたのかも

しれないがビジネスの原点でしかないと今なら断言できる。

もちろん、誰かに何かの価値を提供しているものではないの

でビジネスの原点というのはおかしいかもしれない。

僕にとってのパチンコは本業以外の職種で”稼ぐこと”を
教えてくれた成功体験のきっかけということだ。

その後、僕は運命的な出会いを果たすことになる。

それはある意味直接的に僕の人生を変えた。

それは 2013 年の 10 月のことだった。

今思えばその出会いは僕に起業家としての道を開いてくれ
ることになる。

そして、

僕は2015年の9月に本格的にビジネスをすることになる。

その半年後の2016年4月に僕の1ヶ月の月収は100万円になりそこから月収100万円を切らなくなった。

最初の出会ってから2年半以上は経過しているものの、

僕の価値観の完全なる崩壊である。

今までお金にケチっていた自分の世界観はなんだったと思う程である。

時給が1000円であったとして1000時間働かないと稼げない金額でたとえ1日24時間で働いても42日間掛かるのだ。

もはや意味不明である。

半年ほどビジネスにフルスロットルかましてただけで稼ぐことができたのだ。

この時、祖父母はどうしてあれだけケチだったのかと率直に感じた。

それと同時に知識というものが凄まじいということも知ることが出来た。

本当に知っているか知らないかということだ。

そして、それを学べる環境にいるかそうでないのかで全てが変わってくるということだ。

お金に対しての感覚が全然違ってくるのだ。

僕はその後に様々な実績を上げることができて、それらは環境が良かったということに他ならない。

運が良かったのかもしれないが、

ビジネスの原理を学ぶことができたということだ。

原理というのは、本質である。

原理原則を理解してビジネスをするのと、
いずれ成功できると思ってがむしやりにビジネスをするの
では天と地ほどの差がある。

それらを学ぶことができた。

僕はその出会い 3 年後、
月収が 300 万円にその翌年月収が 700 万円になった。

僕の収入は基本的にインターネットビジネスである。

インターネットを利用したビジネスをしている。

僕は月に利益が 100 万円～700 万円程あるが、
特に毎日激務をこなしているわけではない。

好きな時間に起きて好きな時間に 2 時間くらい作業をして
こういった収益が生まれている。

日によっては全くパソコンに触れることなく売上が上がることも余裕である。

僕は確かに働いてないかもしれないが、僕の代わりにインターネットのおかげで何もせずとも価値を提供して稼いでくれている。

インターネットの時代に生まれその時代の恩恵を受けられてまじでありがたいと思っている。

インターネットは人間が働かなくても影分身のように働いてくれるのだ。

だからこそ、

ゴルフや筋トレに時間を費やしていようとも稼ぐことが可能になっている。

年齢すら関係ない。

そして、専門的なスキルが必要というわけではない。

正直いうと、パソコンの専門的なスキルすら必要ない。

僕はパソコンの授業がついていけなかったほどだ。

文字が打てたりする最低限可能であれば稼ぐことができる。

少しでもわからなければググれば解決する。

僕は最初ネットビジネスをする前はプログラミングとか
HTML とかイジれなければインターネット稼ぐことは不可
能だと思っていたがそんな必要はない。

プログラミングもいらなければ、

HTML なんて未だに僕はいじることができない。

文章が打てたり Word を使えるのであれば問題ない。

他にもツールはあるが少しずつ覚えればいいだけだ。

昔の僕はアナログ人間すぎて新しいものを苦手としていた。

(iPhone 使い始めたのも 20 歳過ぎてから)

「新しいもの覚えるのはめんどくさい」

こんなことを考えていた。

これはダメな思考である。

本当に損をしていたと思う。

少し面倒なことをやらないことによって後々超絶めんどくさいことになるのだ。

僕にとってはそれは当たり前の世界だった。

でも今は全く違う。

そもそも今は当時の思考を後悔している。

それもあるので今は常に新しい世界に入るための投資は全く惜しむことはない。

それは情報に投資する場合もあるし、
システムとかツールに投資する場合もある。

ネットビジネスの初期段階はいろんなものに投資しまくった。

セミナーにも参加したり、
コンサルティングを受けたりもした。

やっぱり、ショートカットすることは効率的に大事なことだなと感じる。

僕は今、
パーソナルトレーナーの先生から筋トレの指導を 1 年半以上も受けているけどやはりプロから指導を受けることで圧倒的に早く結果が出るし成長を実感できる。

ゴルフも全く同じことである。

うちっぱなしに行って独学でやろうとしてボールに当たる
ことが出来なかったのが、1度の講習で綺麗にボールが飛ぶ
ようにもなった。

昔は本当に独学がいいかと思っていたが、
どっからどう考えてもコスパが悪いことを知ってしまった
のだ。

お金というものは単なる手段でありツールに過ぎない。

お金を使うことで、時間を短縮することができるのであれば
僕は大喜びで使うし、

そこで変にケチるよりもその時間を使って稼いだ方が早い。

お金を使うことで時間が増えて迷わないで済むので精神衛
生上も良いのだ。

迷わないってことは脳みそもスッキリしているので人生の幸福度にも繋がると思っている。

僕はわからないならばサッサとお金を払って人に聞いてしまっていることもしている。

迷った挙句にいつの間にか2週間が経過してしまった。

1ヶ月が経ってしまったみたいな経験はないだろうか。

僕はパチンコで勝てるようになるまでがまさにそれでまじでもったいないことをしたなと思う。

2週間や1ヶ月があったら僕であれば1つ事業ができてしまうのではないかと思うくらいにかなり長い期間なわけだ。

ビジネスの世界っていうものは本当に入ってしまったものが勝つ世界だと感じる。

僕は運良くビジネスの世界に入ったから良かったが、

昔みたいに雇われるのが当たり前で時間を切り売りするのが普通の価値観のままであれば未だにケチなマインドでいたのかもしれないと恐怖を感じるし、

パチンコで勝てるようになった成功体験がなければ今もなお仕事をしながらパチンコ生活をしていたかもしれないと思うとなおさらゾッとする。

これからの時代は格差がどんどん広がっていくだろうし、

ネットの発達によるインフルエンサーの台頭、ユーチューバーが当たり前の職業になりつつある昨今。

10代にして年収 2000 万円を越えるような子たちもどんどん増えてきたとしても不思議ではない。

むしろこのような現象はどんどん増していくだろう。

この時点でかなりの格差が発生している。

年収で 2000 万円以上というのは、

割合にして 0.6%だ。

年収 1000 万円でも 5%と言われている。

正直、まともに働いたとしてもそんな世界に入るとはかなり難しい部類になるし、これからはどんどん難しくなってくる。

自分で意を決して、稼ごうと決めた人間だけが、

辿り着き、そして報われる時代であり社会だ。

日本という国は資本主義社会なのでお金でほぼ全てのこと。

99%は解決してしまう世の中である。

人によっては人生はお金じゃないという人もいるかもしれないが、それは一定以上の収入がある人が言うセリフだ。

たとえ、出会いが欲しかったとしても

お金がなければフットワーク軽めに出会いに行くことすら
できないし。

お金のために忙しく働いてしまっていては、
美味しいものを食べたかったとしても
食べに行く時間すらない場合さえ有りうる。

そんな悩みさえもお金があることで解決する。

僕はケチな時に見ることのできなかつた世界を今はたくさ
ん見ることが出来ている。

勉強して知識を得ることでそれを自分の
ビジネスのフレームワークに当てはめて、
実際に市場で試してみても収入が上がる時の
快感というものは何ものにも変えがたい。

それは看護師、いわゆるサラリーマンをしていたら
絶対に得られない領域である。

学んで知識をつければつけるほど収入が右肩上がりに増えていき、なおかつ関わる人も変わってくる。

その結果、

僕は様々な人と出会うことができるようになった。

お金に不自由することなく人生を謳歌している人にもたくさん会った。

僕がケチであることの価値観に染まり続けていたら絶対に
出会うことの出来なかった人たちだ。

これはよく言われることだし、自分で体感してしまっている
ので強く言いたいのが・・・

「周りの仲良い 5 人の年収を足して 5 で割った数字が自分の
年収になる」というのは紛れもない事実だ。

人間の行動パターンや習慣は嫌でも環境に左右される。

稼げない価値観に染まっているとしたらそれは当たり前前に
稼げないし、

稼げる価値観に染まり、正しい行動をすることで自然とお金は集まってくる。

これはもはや原理原則といっても過言ではない。

これは本当につくづく感じることだ。

僕の過去のように稼げない、いわゆるケチな価値観に染まっているとお金を稼げる情報は全く入ってこない。

自分で情報を遮断してしまうこともしてしまっていたらう。

なぜなら自分とは違う価値観を受け入れることに人間は拒否反応を示すからだ。

だって、僕は看護師をしながらパチンコでも稼いでいたが全
て時間で働いていたので

「そんな世界があつてたまるか！」

と思っていたのは事実であるし多くの人は同じ感情を抱く
だろう。

だが、実際は存在する。

ていうか存在しないはずがない。

出来ている人が存在しているのであれば同じやり方を行え
ば、真似ることが可能であればできないはずがないのだ。

僕は意を決してビジネスの世界に入ることができてよかつ
た。

金持ち父さん貧乏父さんでは、

人を 4 つに分類していることもインターネットビジネスをしている最中に知った。

E 従業員

S 個人事業主

B ビジネスオーナー

I 投資家

がある。

お金持ちになるためには、また時間的な自由を得れるポジションというのは確実に従業員ではなかったのだ。

つまりは、もともと僕はお金持ちとは程遠いポジションにいたことを意味しているし、

ばちくそ真逆の人生を 25 歳まで歩んできたことになる。

今回のこのレポートでは、

僕がお金に対してコンプレックスを持っていて、ケチで、素直じゃないひねくれ野郎で結果的に損をしてきた話から

ビジネスで稼いだことによって価値観が破壊されて、

生きる世界が変わってきた話をしてきました。

そして、最後にはとても大事なことを言いたい。

今の僕は祖父母や母に全く恨みもないむしろ感謝をしているということだ。

両親は早々と離婚をして 2 番目の父は失踪するという家庭環境が最悪でコンプレックスだったが、

祖父はお金を援助してくれて高校と専門学校にも行かせてくれた。

祖母はガミガミうるさいものの母のような存在で美味しい

食事を作ってくれた。

母は僕が非行に走らないように育ててくれた。

感謝をすべきであるし運がよかったと思っている。

人は自分とは異なる価値観の人間と出会わないと、
自分の殻から抜け出すことは不可能だ。

祖父がいなければ今の僕はいない。

2 番目の父が失踪後に 16 歳で就職をしていただろうからチャンス
を掴むこともなかったと思っている。

そんな状態だったらもしかしたら非行に走っていたかもしれないし、

素直に余計になれずにチャンス掴むことや受け入れる精神状態にはなれなかったかもしれない。

それを回避して自身の価値観を根っこから変えることがで

きただけでも十分運がいいと言える。

ちなみにだが、

運というのは

チャレンジ回数×方法＝運

こんな感じで表すことができると思う。

正しい方法で回数を重ねることで結果的に運がよくなる可能性は高くなるし、

その逆で悪い方法で回数を重ねることで、

何をしても上手くいかないという挫折パターンがある。

このことから正しい方法でやるというのは、

ばちくそ大事なことなのである。

汗水垂らしながら努力するのも大事だと思う。

だが、その裏でどれだけ汗水たらしたとしても、

結果が出ない人もいるということだ。

悪いやり方で失敗したとしても他の部分で満たされていれば余裕な心で成功するまで頑張れるかもしれない。

何度でも。

が、昔の僕のように何かに満たされることなくそれを強要されるのはあまりに酷なのも事実ではある。

誰もが何かしら報われたいと思うのは人として当たり前
の感情だ。

努力をしてことが大事で意味があると僕はかつての職場の
ドクターに言われたことはあるが、
これはある意味良くない価値観なのではないだろうか。

意味のある努力であれば全くもって問題ない。

悪いやり方の努力は次に活かさない経験になり得るという
ことだ。

そうすると、

失敗して終わりという 1 番最悪な状態になりかねない。

僕は高校 1 年生の 1 学期に 2 番目の父の失踪を機に人間の
本質なる本音みたいなものを教わったと思っている。

いくら自分が頑張っていようとも、

お金がなければ無力だ。

経済力のないものになんの権限もない。

選択の余地すらないのだ。

僕は 26 歳でインターネットビジネスで稼ぐまで

「なんて家庭に生まれてしまったのだ。運が悪すぎる！」

なんてことを思っていた。

だけでも運が悪いことなんてことは恨もうが発狂しようが仕方がないことなのだ。

当然のことだが、世の中というものは格差がある。

これは資本主義社会である日本の社会では当たり前のことだ。

僕の今までの家庭環境を見れば明らかなのが、生まれた瞬間に運にも差がついてしまうということだ。

そして、その運の善し悪しにより幼少期の過ごし方さえ変わってくる。

だが、それを恨んだところで何も変わらない。

そこは認めなければならないことなのだ。

運が悪くだけで自分の人生を諦めるのはまじでもったいないと思う。

僕はぶっちゃけると自分の人生を恨んで、他人の人生に嫉妬し闇を抱えていた時期もあった。

26年間もだ。

でも、それにはなんのメリットもない。

運が悪いのであればそれをネタにすればいいし、見返したりできる時代なのである。

僕は母にも感謝をしている。

僕に愛情を注いでくれた。

そして僕のお金への執着心は常人とは比べものにならないものになったし、様々な代償は払ったかもしれないが、お金に対して幼少期の頃から向き合うことができた。

それらがあったからこそ今があると思っている。

逆に言えば、

単なる普通の家庭環境で育っていたら、

こんな風に物事を俯瞰して上を目指すような価値観になることはできなかつただろう。

上を目指すということは現在の自分の状況を否定してさらに磨きをかけることをいう。

誰もが耳の痛い話や否定されるのはされたくないだろう。

自分を一生肯定して生きていけたらそれこそこれほどまでに楽なことはない。

若いうちの苦勞は買ってでもしろという言葉があるが、

まさにこの通りなのである。今だからこそ思うこと。

素直に生きるということはとても難しいことだし、

なぜなら自分の弱さを認めなくてはならないからだ。

何かしらに言い訳をしている人生をやめて、
少しずつでも人生が好転していけるように覚悟を決めて進むことが大事だ。

結果的に僕は言い訳だらけの人生に終止符を打つことができた。まだまだ至らないことが多いのは確かだが。

26 歳でこうなれたのはまた、そんな考え方になれたのはハッキリ言って運が良かった。

言い訳ばかりを口にして、
ケチな自分のままでひねくれて、
素直じゃないままプライド高く生きていたら
大した人生を歩めなかったんじゃないかなと思う。

素直に、お金が欲しいと認めて、
そのために行動をする。

お金を得るために自分の様々なスキルが上がることは非常に人生の幸福度を高める。

そもそも、

- ・ 学歴を得る
- ・ 資格を取る
- ・ バイトをする
- ・ 就職をする

これらは全てお金のためである。

お金が全てではないという人もいるかもしれないが、
給料がゼロなのにわざわざ上記の行為をする人はいるだろうか？

つまりはお金目的ってことだ。

素直にいうとお金だろう。

お金が欲しい、いい家に住みたい、いいもの食いたい、旅行がしたい、女にモテたい。

素直でいいということだ。

そのための努力をすればいいだけだ。

正しい方向で努力を進めるために、

ガンガン自己投資をしたらいい。

お金も時間も全て投資するのだ。

それが1番最短で健全なルートである。

自分の欲求に嘘をつき、

他人にも嘘をつき、

そんなことをしても人生の幸福度なんてものは上がるはずもない。

お金を得られるようになると本当にいいことしかない。

時間さえもお金で買えるし、

知識もお金で買える。

それをするので、より効率的なルートもお金で買える。

ハッキリ言えば出会いですらお金で買うことができる。

お金があることで時間が増えるので、

たくさんの人と会うことも可能になるし、

そのためのお金を生み出すことも可能になる。

プライベートでの出会いすら充実してしまうだろう。

改めてですが、

素直な自分になれたことを母と祖父に感謝したいと思う。

そして、ここまで読んでくれた人にも感謝します。

こんなに長いレポートを読んでくれてありがとうございます。
す。

僕の抱えていたコンプレックスとともに正直な気持ちを今回のレポートには書き連ねました。

正直、隠していたのもあるので向き合いたくない気持ちもありました。

だがそれは、

幼少期から抱えていたお金に対してのコンプレックスを素直に向き合ういい機会になりました。

だからこそ感情そのままに書いてみました。

このレポートを読んだ人が、

昔の僕のような価値観や今現状で悩んでいることから抜け出すことができるように、
そして、自分の感情に素直になることを願います。

改めてにはなりますが、
ここまで読んでくれてありがとうございます。

フミヤ